1 兒 135

児童芸術欄原稿（新年号十一）

奇数頁より始めて

六行分

童謡評釈

西條八十

一、ぼくが大きくなつたらば

「ぼくが大きくなつたらば、お馬に乗て、剣さげて……………」

　こんな風な謡を私は子供の時、ひとから教へられてよく歌つた。「僕が大きくなつたらば」乃至「妾が大きくな

十ノ廿　松屋製

(SM印　B…1)

---

2 兒 136

つたらば」などといふ、將來の自分へ向て繋ぐ願望（ぐわんばう）、期待は、遙かに童謡の主題となり得る児童の心理等、その辺の心理~~描写~~解剖るものである。

　今手許にある~~海~~外の童謡詩人の作品中から、さうした心持を扱つたものを三四拾つて見よう。

　まづあの有名な「子供の詩の園」の著者英國のロバート・ルイス・スティーヴンソン（Robert Louis Stevenson）の童謡集には「點燈夫（てんとうふ）」（The Lamplighter）と云ふ作がある。これは、~~昔~~今では電燈の世の中になつたので、すつかり跡を

十ノ廿　松屋製

(SM印　B…1)